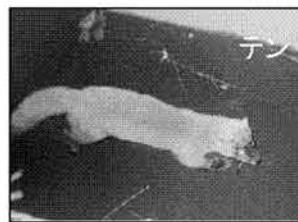


国道289号 甲子エコロード ～自然との調和～



郡山国道事務所

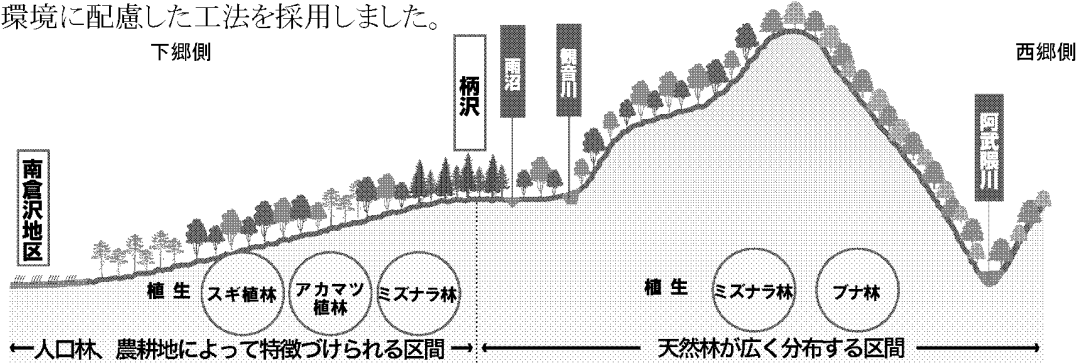


福島県

甲子道路の自然

甲子道路の周辺には、ミズナラの雑木林やスギ樹林のような里山からブナの天然林に至るまで様々な環境が見られ、その一部は日光国立公園にも指定されています。これらの豊かな自然を生活の場として、クワガタ類やトンボ類などの昆虫類を始め、タヌキ、ツキノワグマなどのほ乳類にいたる多様な生物が生息しています。また、イヌワシなどの猛禽類の飛来もみられます。甲子道路の完成により、利便性の向上や地域の発展が期待される一方で、豊かな自然環境へ与える影響も懸念されるため、環境に配慮した工法を採用しました。

甲子道路周辺の自然環境は地域の財産であり、地域の方々と共に、この貴重な財産を失うことなく確実に次世代に引き継ぐことが私たちの使命といえます。



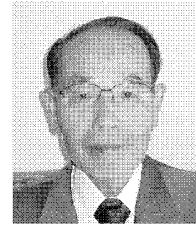
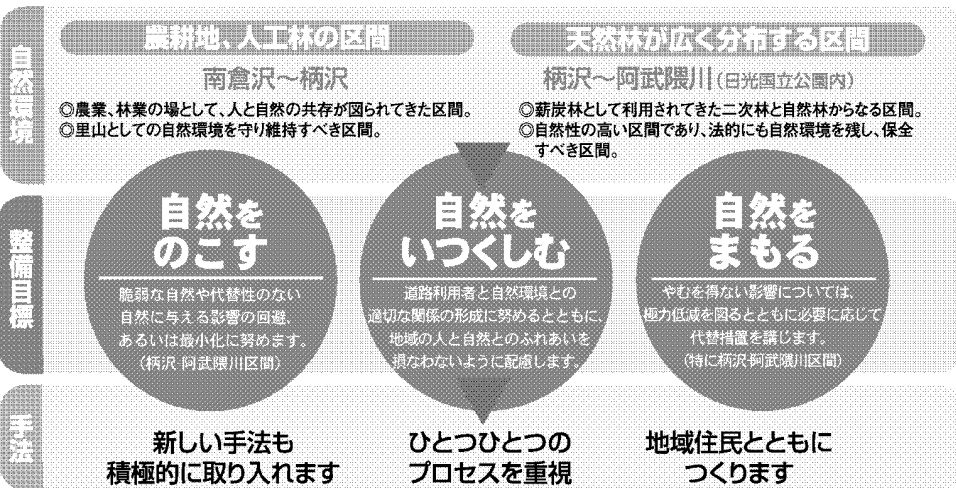
甲子道路エコロード計画

エコロードとは？

エコロードとは、生き物の生活とその環境を大切に造られた道路のことです。エコロジー(生態学)やエコシステム(生態系)の「エコ」と「ロード」(道路)を組み合わせた言葉です。

甲子道路での取り組み

甲子道路では、各分野の専門家を交えた委員会において、自然環境の保全対策などの検討を行い、対策を行う際は、地域の方々と一体となった取り組みも行っています。



甲子道路エコロード
追跡調査委員会 委員長
元日本大学教授
工学博士 赤津 武勇さん

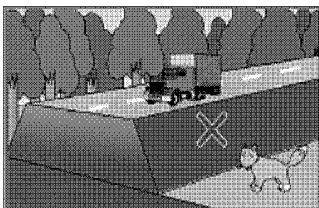
甲子道路では、豊かな自然環境が保たれ、貴重な動植物の宝庫であると共に日光国立公園内を通過する事から、自然に優しく調和した道づくりを目的として、調査・検討を進めてきました。その目的を十分達成することが出来たことに対し、各委員の皆様から感謝申し上げます。

甲子道路の特徴は、四季折々の動植物の生態系の確保や景観にも配慮した道路構造となっているところです。

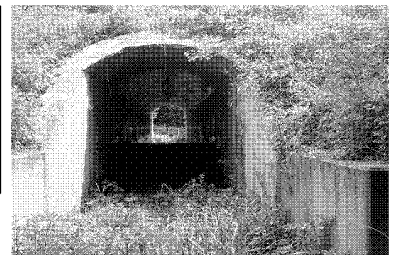
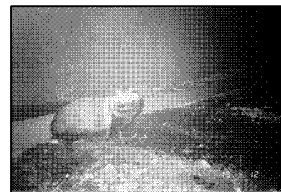
開通後には、これ迄取り組んだ様々な対策における効果の確認、開通による環境変化の把握、動植物の事後調査等が大切であるため、引き続き調査を行って頂きたいと思っております。

具体的な取り組み事例

動物のとおり道をまもる ～横断構造物の設置～



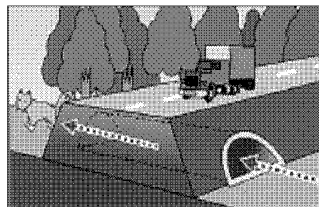
道路ができると、動物たちは道路の反対側へ行けなくなります。



▲大型ほ乳類が通れる横断構造物

事例

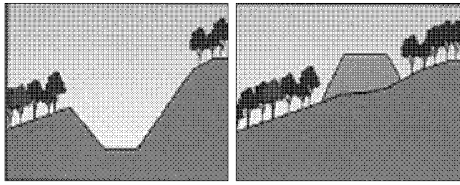
エコロードでは、動物が道路の反対側に行けるように、道路の下に動物のとおり道を設置しています。



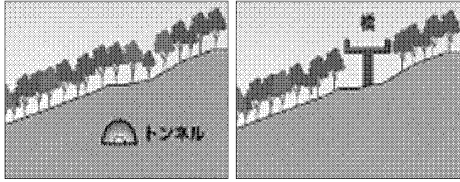
動物のとおり道の調査を行い、どうしても分断してしまう所では、道路の下に動物の大きさに合わせたとおり道を設置しています。

植物や動物のすみかをまもる

～構造や線形への配慮～



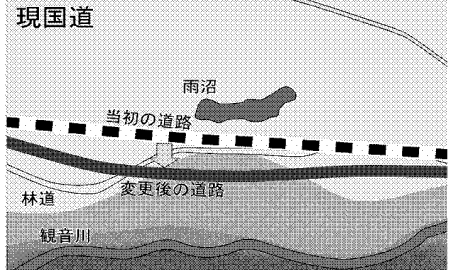
道路を造るためには、木を切ったり、山を削ったりするため、植物や動物のすみかが失われてしまいます。



エコロードでは、できるだけ木を切ったり、山を削ったりしないようにするため、トンネルや橋を多く用いています。

実例

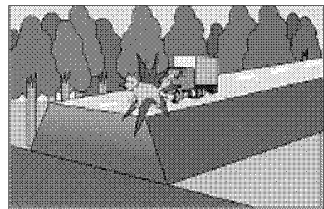
▼雨沼橋周辺での道路位置の変更



雨沼付近では、サンショウウオ類や動物などの重要な生育・生息環境となっており、影響を出来るだけ小さくするため道路の位置を変更したり、移動路を確保するため橋をかけ、動物の生息域を分断しないようにしています。

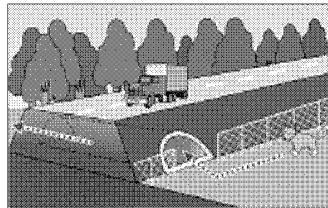
動物を交通事故からまもる

～誘導対策～

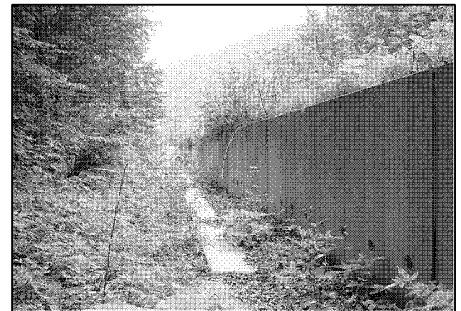


動物が道路を横断すると交通事故にあう可能性があります。

エコロードでは、動物の横断を防止するためフェンスなどを設置し、安全に横断できるところまで誘導します。



実例

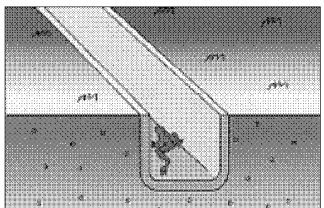


▲擁壁設置状況

誘導柵や擁壁などによる誘導を行っています。

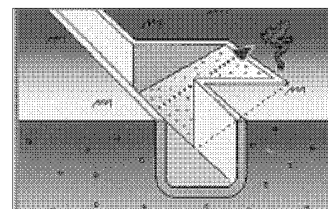
小動物をまもる

～側溝への配慮～



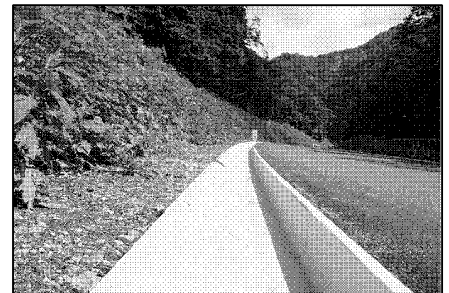
小動物が道路の側溝に落ちてはいせせず死んでしまう可能性があります。

エコロードでは、小動物が側溝からはい出せるような側溝の形状にしました。



実例

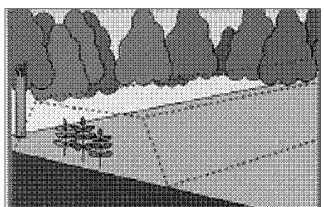
▼はい出せる側溝



可能な範囲で土側溝を使っていますが、コンクリートの側溝を使う場合は、片側を斜めにした側溝や集水柵を設置しています。

貴重な植物をまもる

～貴重種の移植～



工事区域内に生息する貴重種は、放っておくと道路工事によって失われてしまいます。

実例

工事区域内に生息している貴重種を守るため、工事を行う前に影響を受けない場所に移植しました。

①既存の緑をまもる

地区住民の方々と一体となり、工事区域内の小さな苗を採取し、苗畑で生育した後、道路の法面に植栽しました。また、表土に含まれる種子や土壌生物をまもるため、元々あった表土を法面に再利用しました。



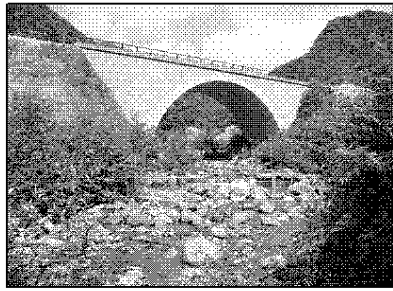
▲工事区域内での苗採取

▼苗畑でのポット詰め替え作業



▲住民参加による植え付け作業

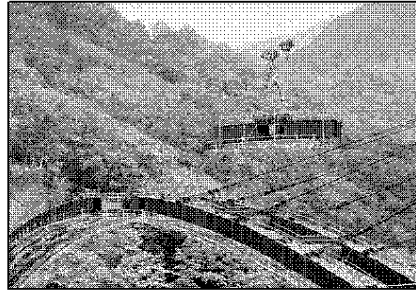
②川の流れや川にすむ生物をまもる



▲観音川橋付近の付け替え河川

付け替え河川では、自然石を利用したり、瀬や淵を造るなど自然な状態を保つように工夫しました。

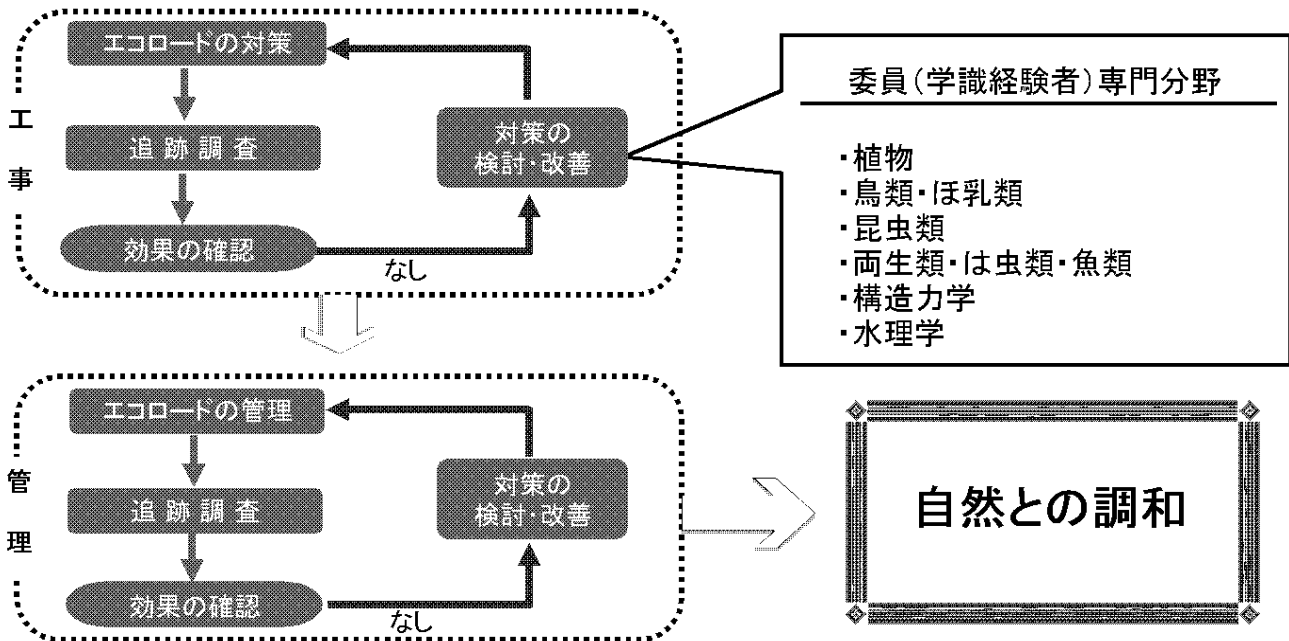
③工事用道路をできるだけつくらない



▲施工中の甲子大橋

自然が壊されるのを防ぐため、できるだけ既存の道路を利用しました。また、甲子大橋では、ケーブルで機械や材料を阿武隈川の対岸に運びました。

エコロードの流れ



国土交通省 東北地方整備局
郡山国道事務所
〒963-0111
福島県郡山市安積町荒井字文部内28番1号
TEL:024-946-0333(代)
<http://www.thr.mlit.go.jp/koriyama>
E-mail:koriyama@thr.mlit.go.jp



106497

福島県 県南建設事務所
〒961-0971 福島県白河市昭和町269番地
TEL:0248-23-1615
<http://www.pref.fukushima.jp/ken-nan/kensetsu/index/>
E-mail:kennan.ken@pref.fukushima.jp

福島県 南会津建設事務所
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
TEL:0241-62-5315
<http://www.pref.fukushima.jp/minami-aizu/kensetsu/>
E-mail:minamiaizu.ken@pref.fukushima.jp